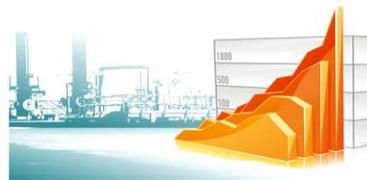


# ぎふ経済レポート



令和3年3月分  
岐阜県商工労働部

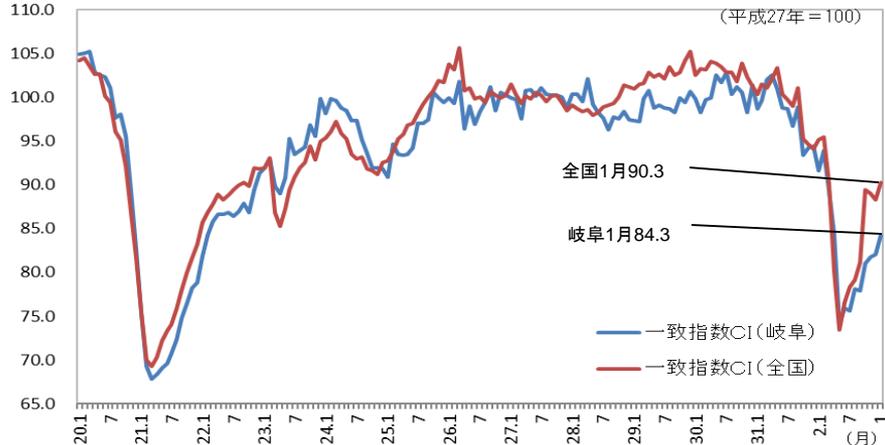
※企業等へのヒアリングは 3月25日～29日を中心に実施し、4月12日時点で作成。

# 景気動向

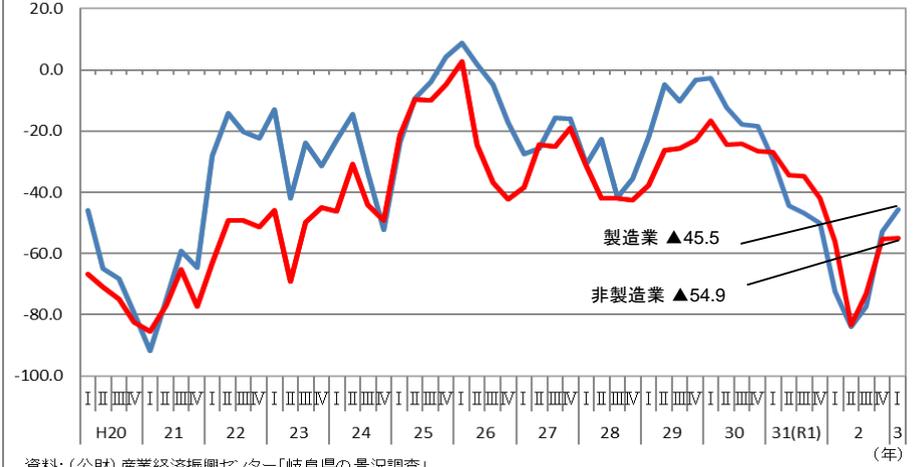
- 1月の景気動向指数(一致指数)は、84.3で前月比2.2ポイント上昇した。
- 2月の県内中小企業の景況感は、▲66で前月比11ポイント上昇した。

- 1-3月期の景況DIは、製造業で7.4ポイント、非製造業で0.2ポイント上昇した。
- 同売上高DIは、製造業で2.5ポイント、非製造業で6.5ポイント上昇した。

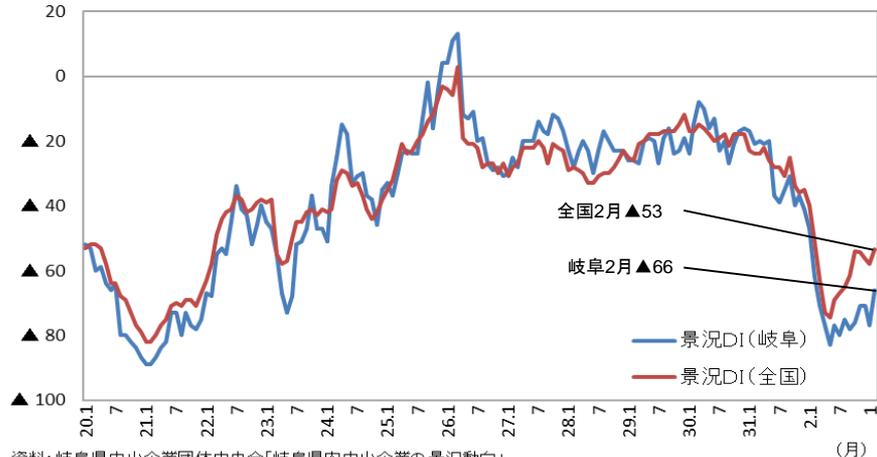
岐阜県及び全国の景気動向指数(一致指数)の推移



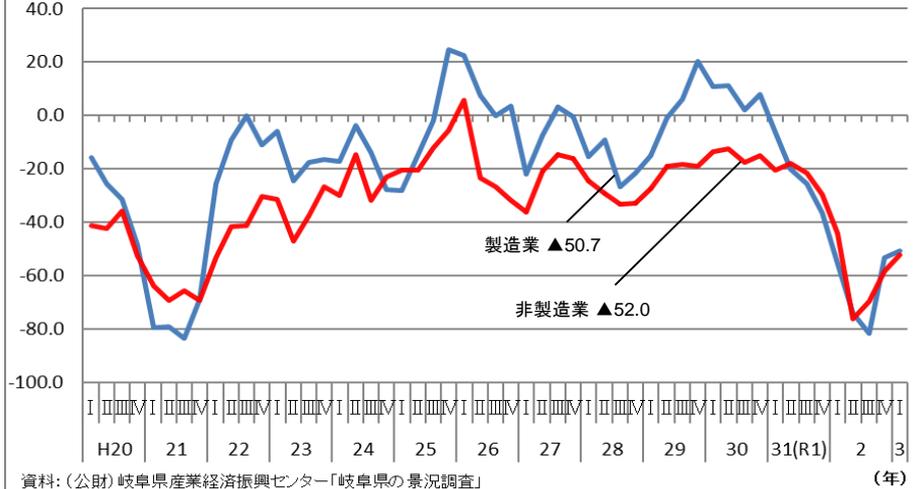
県内企業の景況DI(増加-減少)の推移



岐阜県及び全国の中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



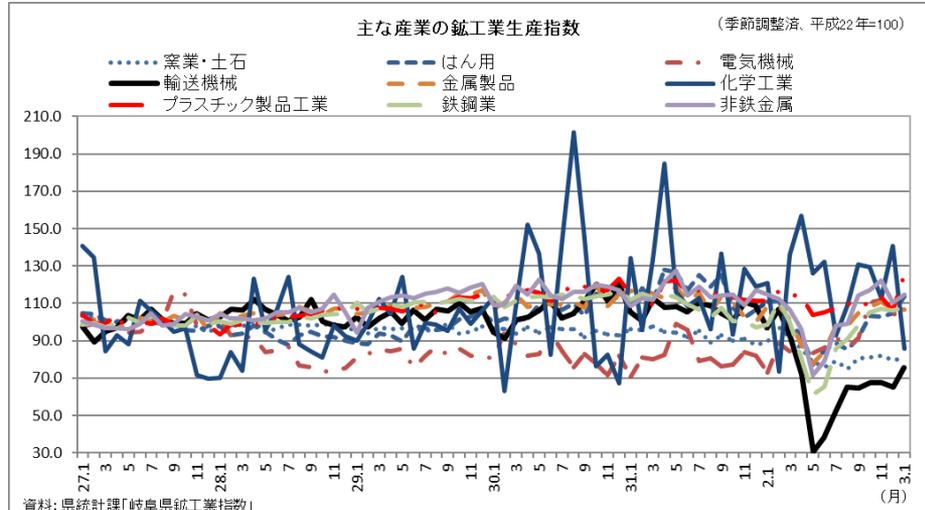
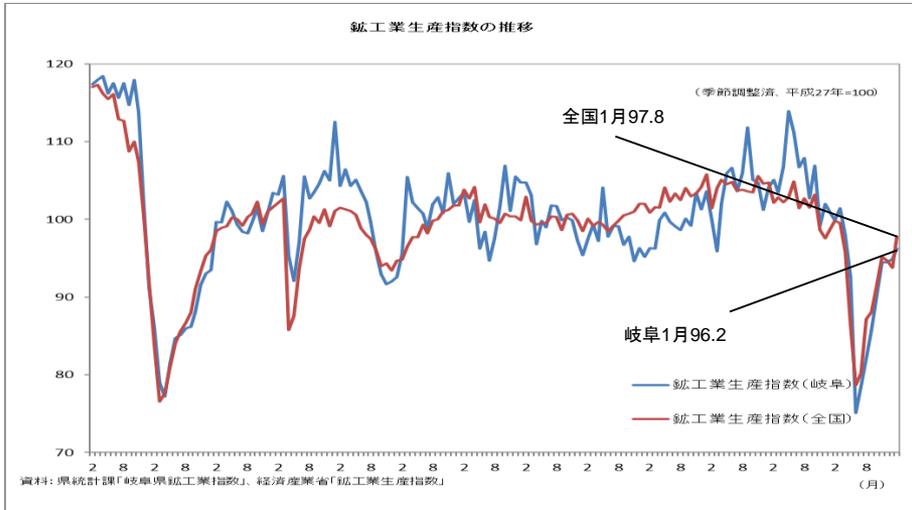
県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移



# 製造業

- 1月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、96.2で前月比1.4%と上昇。
- 主な産業の前月比では、化学工業のみ低下し、多くの産業で上昇した。

- 1月の主な産業の指数は、化学工業で前月比▲39.0%と低下したものの、プラスチック製品工業で同18.5%、輸送機械で同15.8%、はん用で同8.8%、電気機械で同5.5%となるなど、他の産業では上昇した。



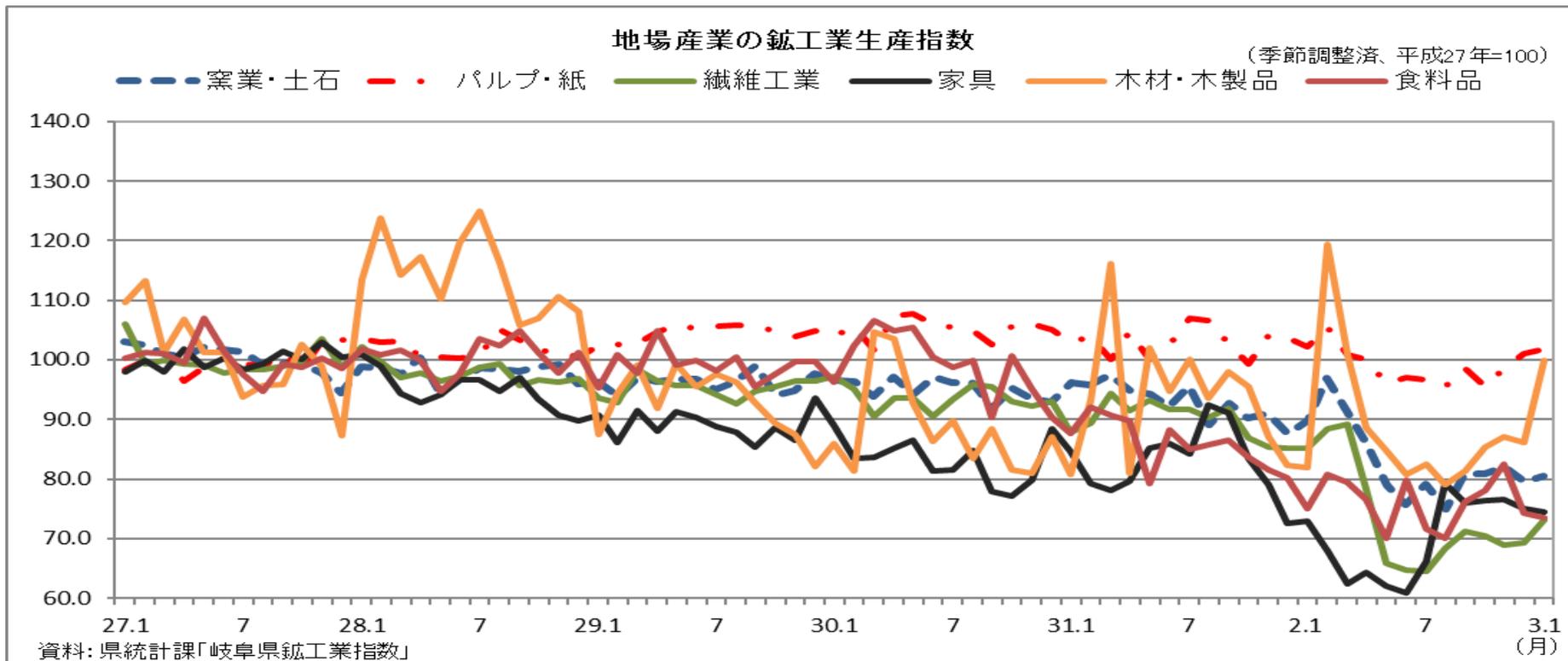
## 現場の動き

(※新型コロナウイルス、半導体工場の火災関連はP6にも掲載)

- ◆ 先月に引き続き、健康食品全体としては前年並みを推移しており、大きな増減ないものの、海外向けの受注が増加傾向にある。(食品製造)
- ◆ 3月も2月とほぼ同じく対前年比105~110%程度となる見込み。中国経済に牽引され引き続き好調である。米国の政権が代わった影響は未だ良くも悪くも出ていない。(輸送用機械)
- ◆ 国内の受注について、自動車関係は100%稼働している。工作機械関係も90%まで戻っており、忙しくなってきた。(電気機械)
- ◆ 工作機械の取引先からの受注が増えつつある。物流機械は通常どおりである。(生産用機械)
- ◆ 自動車関連は年度末の需要により伸びたが、メーカーによっては半導体不足の影響で減産になっているものがある。(生産用機械)
- ◆ 受注は前年並みだが、福島県沖地震(2/13)の影響により原材料の調達に一部遅れがある。(プラスチック製品)

## 製造業-2

○1月の地場産業(刃物を除く)の鉱工業生産指数は、食料品で前月比▲0.9%、家具で同▲0.8%と低下したものの、木材・木製品で同15.9%、繊維工業で同5.6%、窯業・土石で同1.1%、パルプ・紙で同0.8%と上昇した。



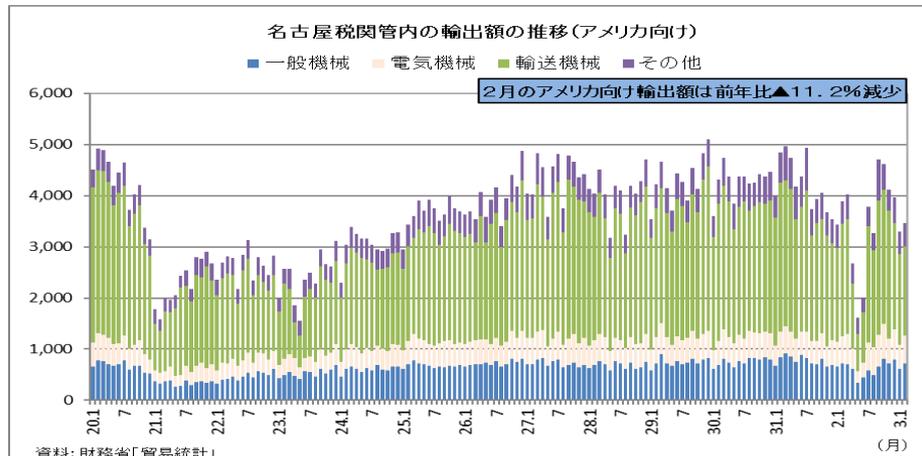
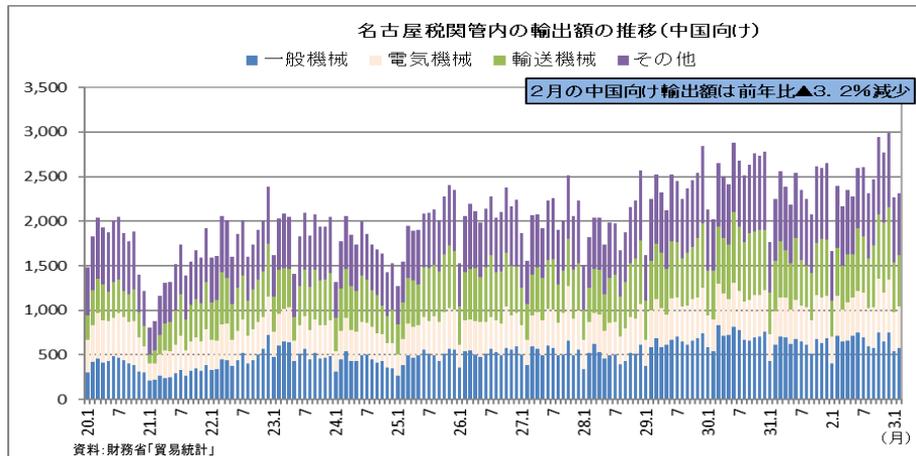
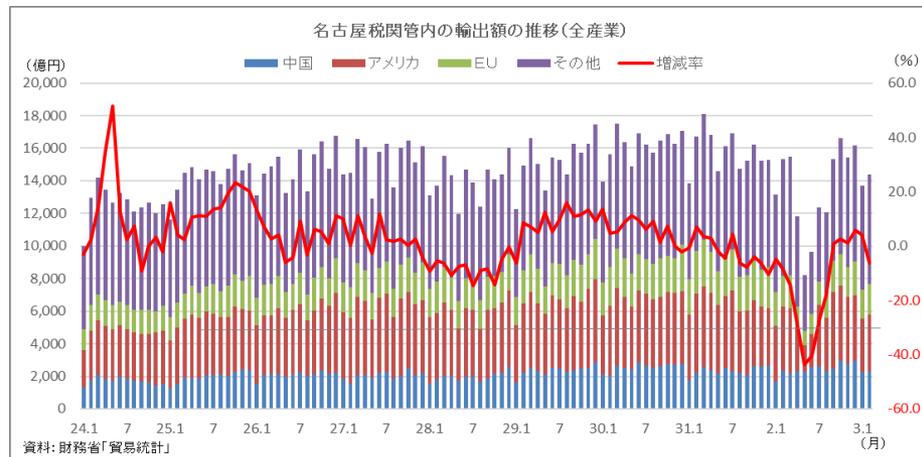
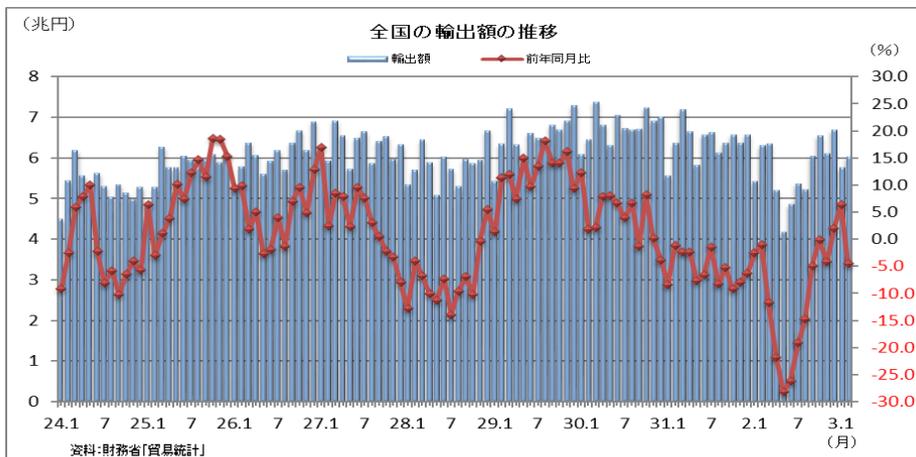
### 現場の動き

(※新型コロナウイルス、半導体工場の火災関連はP6にも掲載)

- ◆ 厳しい状況が続いているなかで、中国向けの動きは活発になってきた。
- ◆ ミャンマー情勢が緊迫しており、岐阜の企業にも影響がないか心配している。(以上、繊維)
- ◆ 飲食店向けの販売が多いため、当社も飲食店に対する時短要請の影響を受けた。(窯業)
- ◆ 前年同月比では売上が10%増えた。海外・国内向けともに、ネット販売が好調。(刃物)
- ◆ 中国の需要が動き始めたことが影響し、原材料等の価格が上昇傾向にあると思われる。(紙)

# 輸 出(名古屋税関管内)

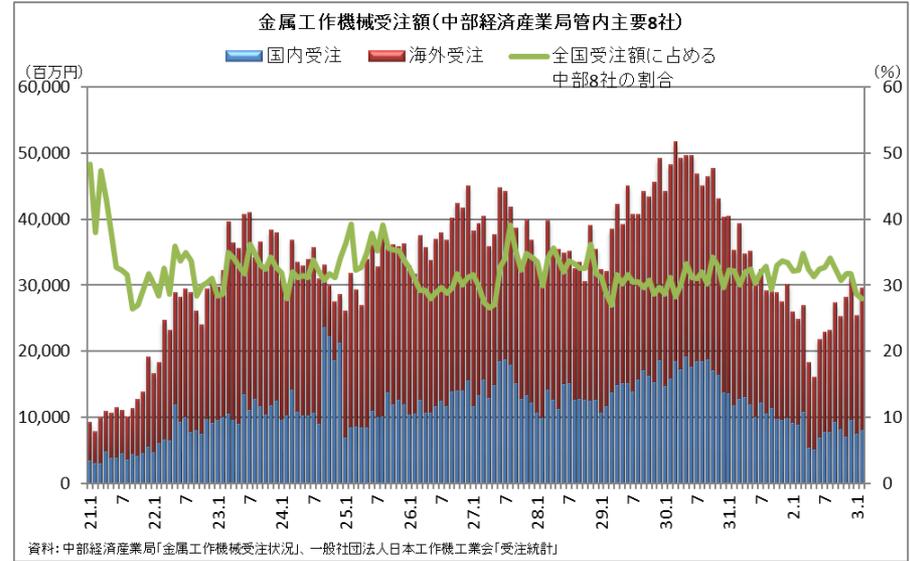
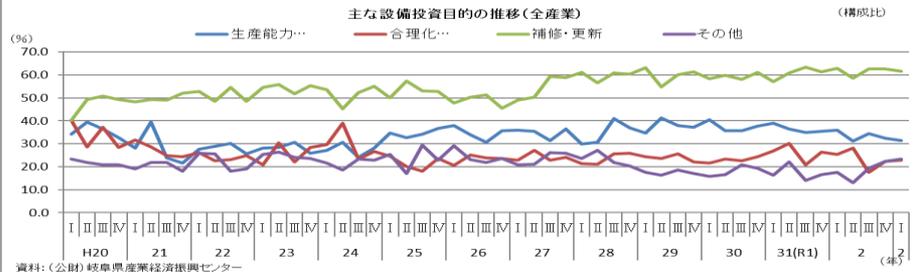
- 2月の輸出額(全国)は、6兆382億円で前年同月比▲4.5%と3ヶ月ぶりに前年同月を下回った。
- 2月の輸出額(名古屋税関内)は、1兆4,371億円で前年同月比6.3%と減少し、6ヶ月ぶりに前年同月を下回った。
- 中国向けは、全体で前年同月比▲3.2%減少した。その内、一般機械で同▲19.3%減少、電気機械で同4.2%、輸送機械で同6.6%増加した。
- アメリカ向けは、全体で前年同月比で▲11.2%と減少し、2ヶ月連続で前年を下回った。その内、輸送機械で同▲20.6%減少、一般機械で同1.4%、電気機械で同1.7%増加した。



# 設備投資

○1－3月期の設備投資実施DIは前期比▲1.7ポイント低下、設備投資意欲DIは同5.6ポイント上昇。設備投資実施DIの目的別では、「合理化・省力化」で前期比0.4ポイント、「生産能力拡大・売上増」で同▲1.0ポイント、「補修・更新」で、同▲0.9ポイント低下した。

○2月の金属工作機械受注額は、全体では前年同月比18.9%と2ヶ月ぶりに前年を上回った。内訳は国内受注では同▲9.1%と27ヶ月連続で前年を下回ったものの、海外向けは同34.5%と4ヶ月連続で前年を上回った。



## 現場の動き

(※新型コロナウイルス、半導体工場の火災関連はP6にも掲載)

- ◆ 自動車製品製造用ラインの機械を更新する予定である。(輸送機械)
- ◆ 塗装用ロボットを導入した。(生産用機械)
- ◆ 機械を更新していく予定はあるが、建物の設備投資は未定である。(生産用機械)
- ◆ 主に老朽化に伴う更新だが、今年も設備投資を実施する予定である。(生産用機械)
- ◆ 業績の回復ペースが速く、設備投資計画を見直す必要がある。(輸送用機械)
- ◆ 取引先の設備投資の状況については、一部で工場、物流センターの新築及び関連する設備投資があるが、全般的には控えめの印象。(金融機関)

## 製造業関係における新型コロナウイルスの影響について

- ◆ 自動車関連については需要が戻ってきたが、電子部品不足による生産調整が懸念される。外食産業関連は緊急事態宣言による影響により回復が鈍化しているようだ。(輸送用機械)
- ◆ 今期の決算は新型コロナウイルスの影響により2割から2割5分減になると想定している(輸送用機械)
- ◆ 自動車製品製造は100%回復しており、通常どおりの動きである。航空機部品製造は3割から4割減、建設機械製造が例年並み、その他が1割から2割減となっており、全体で見ると2割から2割5分減となっている。しかし、取引に明るい兆しが出てきており、これから秋頃に向けて売上が伸びてくることを期待している。(輸送用機械)
- ◆ 残業については自動車製品製造は減っていないが、航空機部品製造では半分か3分の1程度に減っている。(輸送用機械)
- ◆ 国内工場の稼働率は7~8割くらいである。海外工場について、ロックダウンになっている所は稼働できていない。(電気機械)

## 半導体大手ルネサスエレクトロニクス的那珂工場で発生した火災の影響について

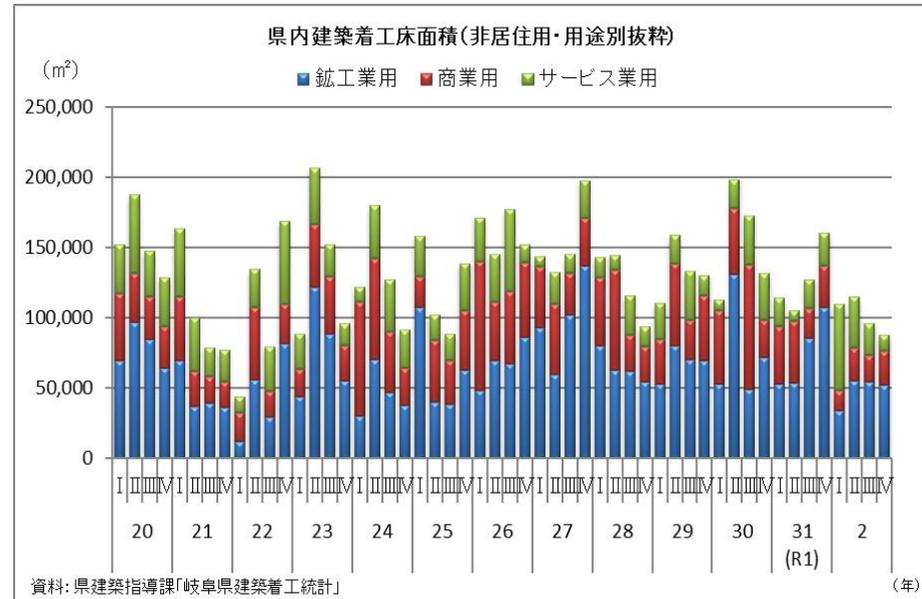
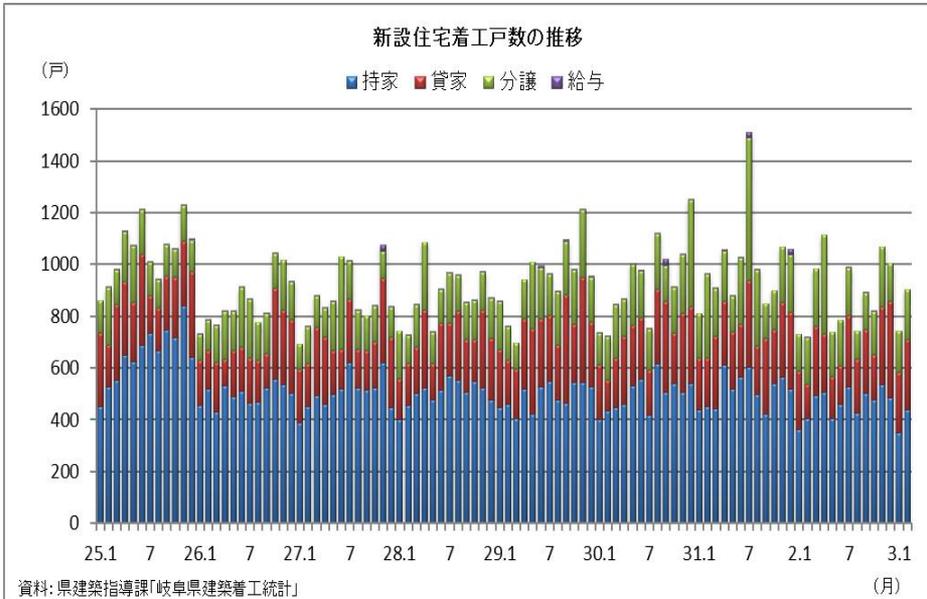
- ◆ 当社への直接影響については、状況を確認中であり、まだつかめていない。(輸送用機械)
- ◆ 現状では生産ラインが止まることもなく大きな影響は無いところ。(輸送用機械)
- ◆ 今後多かれ少なかれ影響は出てくると予想しているが、現在のところ弊社製品への影響については見られない。(輸送用機械)
- ◆ 今のところ生産への影響はでていないが、今後(数か月後に)影響があるかどうか懸念している。(輸送用機械)
- ◆ 影響が出るのは1か月~1か月半程度後の見込み。現時点で影響は出ていない。(輸送用機械)
- ◆ トヨタなど大手メーカーが生産調整に入ると、当社への受注が減少し、生産調整に入ることになる。自動車、半導体は先行き不透明である。(電気機械)
- ◆ 自動車関連はルネサスエレクトロニクスの火災の発生や、米国の大寒波による樹脂の生産停止により、来月以降の減産は避けられない見通し。火災の影響は、自動車メーカー各社の在庫状況にも左右されるので、はっきりとした見通しは立たない。ただし、「影響はあまり無い」という有力自動車メーカーもあり、今のところは、それほど大きな影響はない見通し。少なくとも、当社の業績が急に悪化するようなレベルの影響は出ない。(生産用機械)

# 住宅・建築投資

○2月の住宅着工戸数は、前年同月比25.6%と増加した。

○貸家で前年同月比106.8%、持家で同7.9%、分譲で同7.2%と増加した。

○10-12月期の非居住用の建築着工床面積は、鉱工業用で前年同期比▲51.3%、サービス業用同▲50.2%、商業用で同▲19.3%と低下し、全体としては同▲45.2%と低下した。

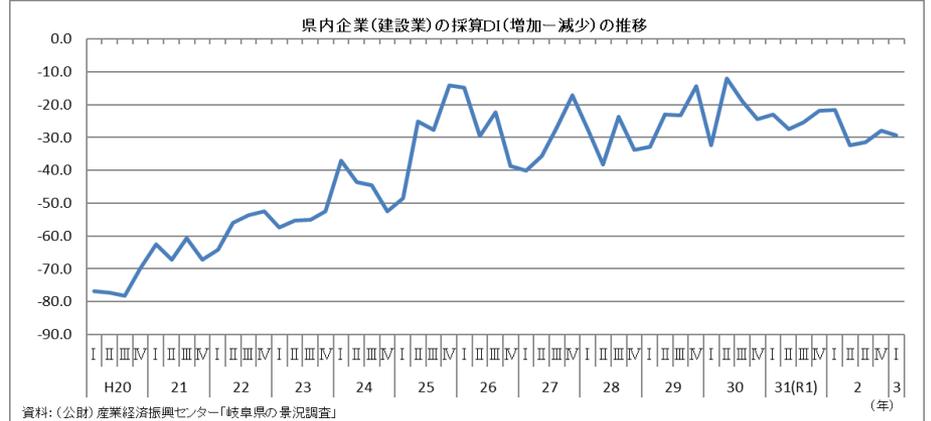
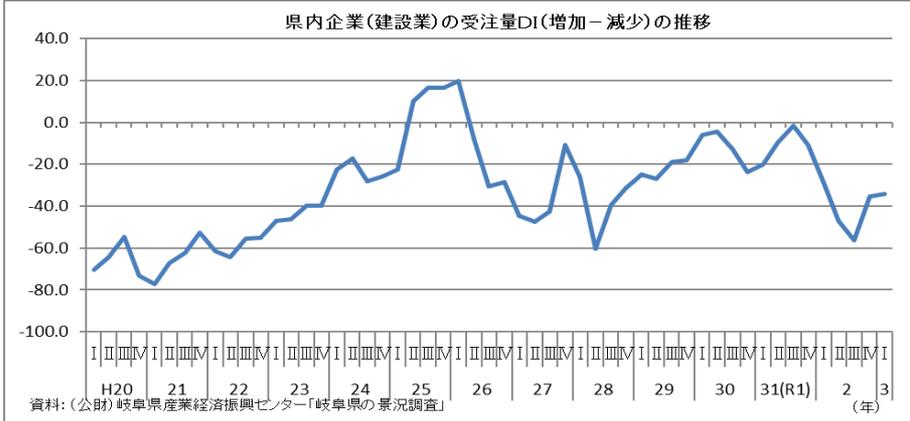
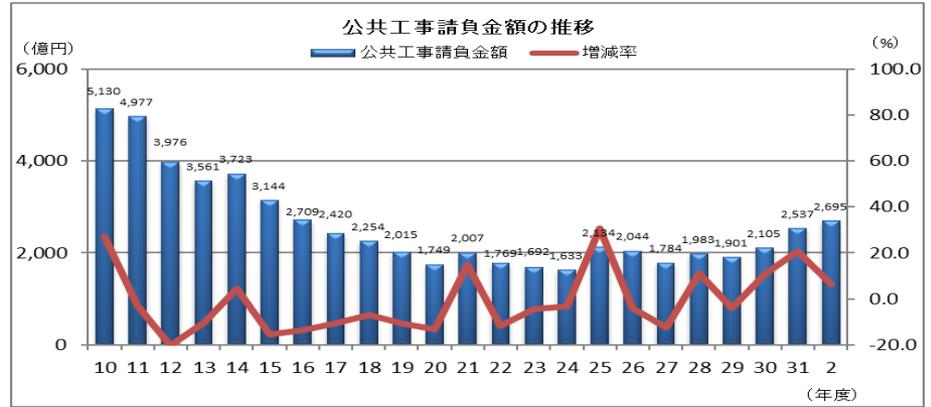
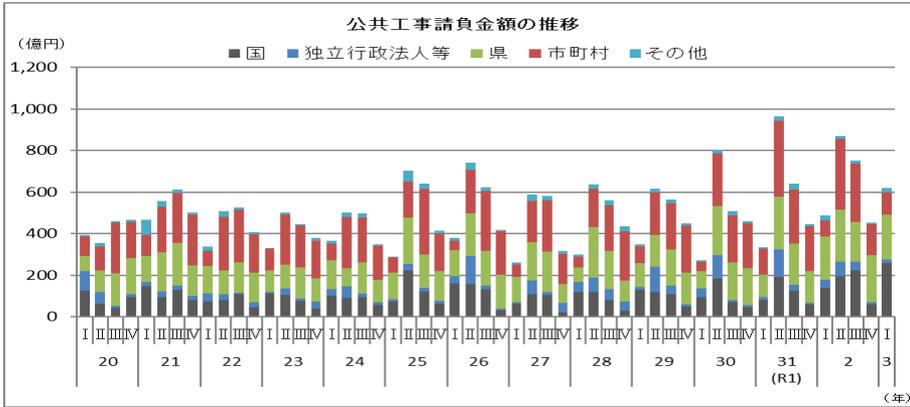


## 現場の動き

- ◆ 木材需要は旺盛であるが、原木供給が追いついていない。原木が常に不足している状況。(組合)
- ◆ 外国産の木材が入手しづらい状況にあり、今は国産材を売るチャンスと考えている。(組合)
- ◆ アメリカ、中国の住宅事業が活性化しているため、日本向けの木材が入ってこない状況。在庫もなく、高くて買えない状況になっている。(木材加工)
- ◆ 完成見学会への来場予約が好調だが、契約件数が伸び悩んでいる。(建築)
- ◆ 3月は堅調に受注を確保。コンスタントに受注があれば、設備投資や増産を検討できる。(製材)

# 公共工事

- 1-3月期の発注者別の公共工事請負金額は、独立行政法人等で前年同期比▲62.3%と減少したものの、国で同87.5%、市町村で同37.5%と増加するなど、全体で同26.7%増加した。
- 県内建設業の1-3月期の受注量DIは前期比1.1ポイントと上昇、同採算DIは同▲1.4ポイントと低下した。



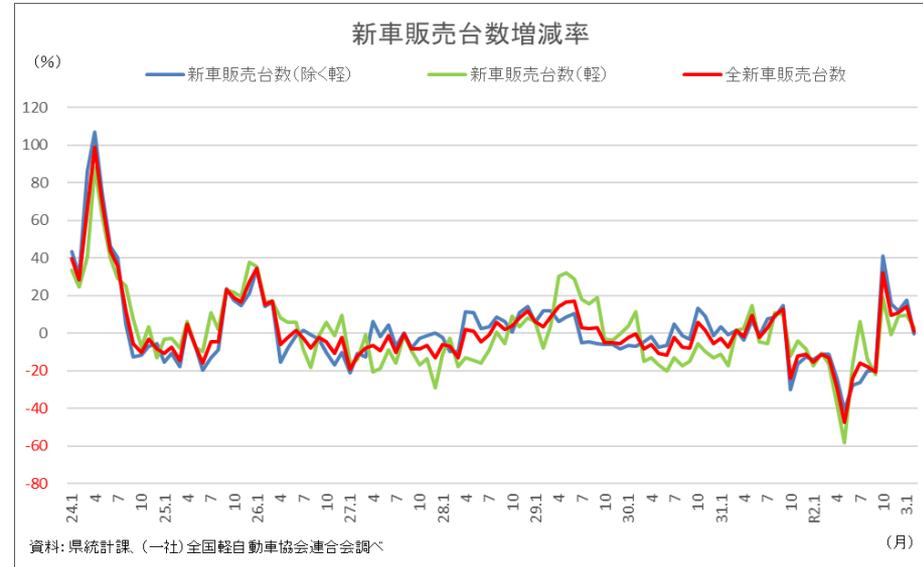
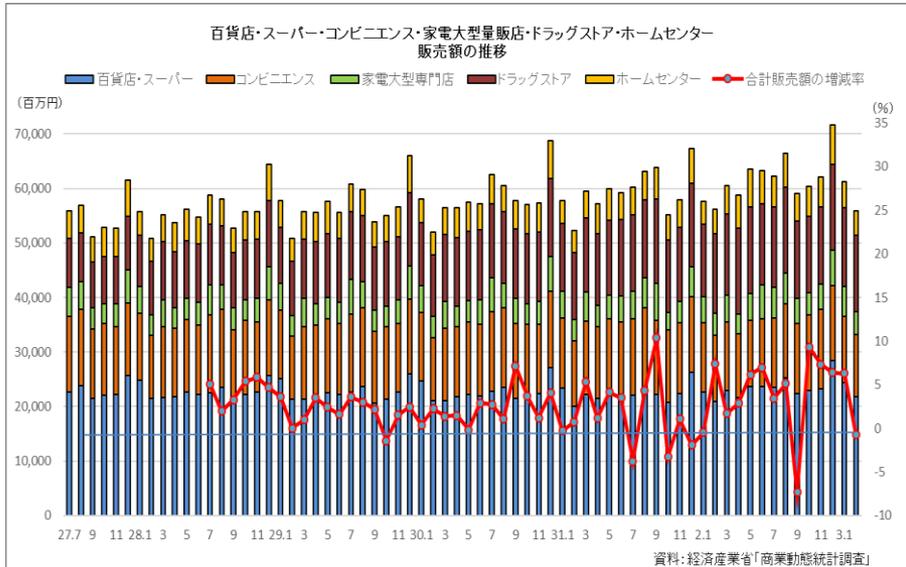
## 現場の動き

- ◆ 年度末の発注が想定より少なく、手持ち工事は昨年よりも減っている。
- ◆ 鋼材が非常に高騰しており、設計単価が合わなくなっている。交通誘導警備員が慢性的に不足している。
- ◆ ICTの活用により一人当たりの作業効率が向上している。(以上、建設)

# 個人消費(流通・小売)

○2月は家電大型専門店が前年同月比7.0%、百貨店・スーパーで同4.7%と増加したものの、コンビニで同▲7.1%、ドラッグストアで同▲5.2%、ホームセンターで同▲0.3%と低下し、全体では同▲0.7%と減少した。

○2月の新車販売台数(除く軽)は、前年同月比▲0.4%と5ヶ月ぶりに前年同月を下回った。軽自動車は同3.1%と3ヶ月連続で前年同月を上回った。合算では同0.9%と、5ヶ月連続で前年同月を上回った。



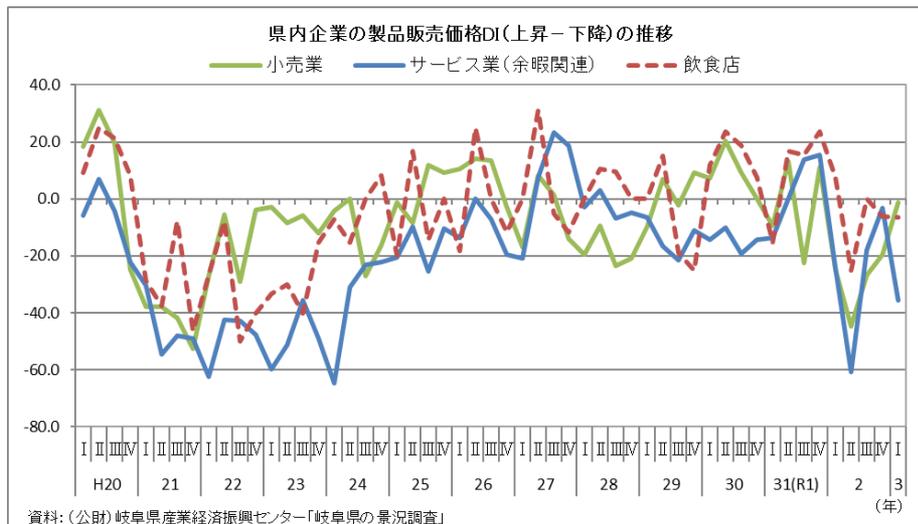
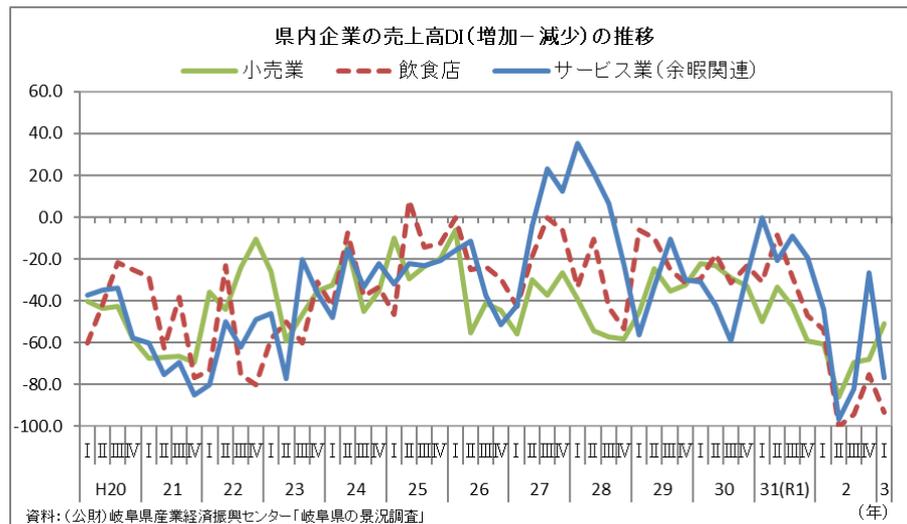
## 現場の動き

- ◆ コロナの影響により、リニューアルや新規開店を見送っていた企業が徐々にオープンしだしている。
- ◆ 4月以降、徐々にイベントを再開するが、感染症対策を万全に行った上で行う。人が密集するイベントは行わない。(以上、岐阜市内大型商業施設)
- ◆ 去年は3月以降にコロナ特需で売上増となった。今年はどうやって落とさないようにするか工夫しなければならない。
- ◆ 人員は過剰気味であるが、パート社員は引き続き確保していきたい。(以上、岐阜市内大型スーパー)
- ◆ 求人発生頻度はすくないものの、応募者が増加傾向にある。(大型スポーツ用品店)

## 個人消費(流通・小売)－2

○1－3月期の売上高DIは、サービス業(余暇関連)で前期比▲49.8ポイント、飲食店で同▲18.3ポイントと低下し、小売業で同17.2ポイントと上昇した。

○同じく販売価格DIは、サービス業(余暇関連)で前期比▲32.2ポイント、飲食店で前期比▲0.4ポイントと低下し、小売業で同18.3ポイントと上昇した。



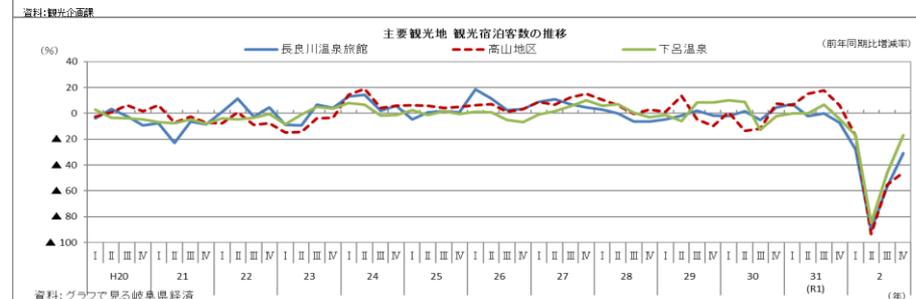
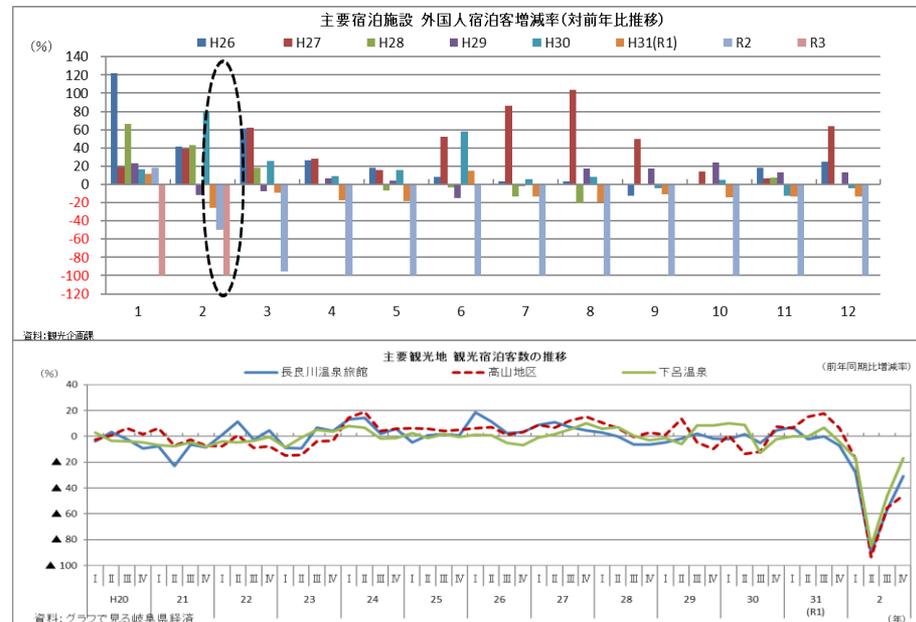
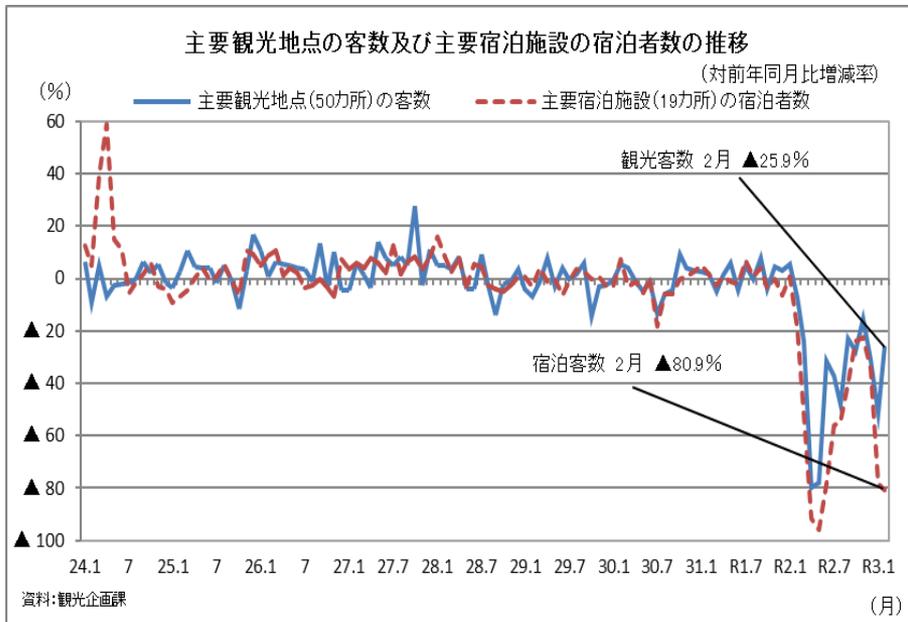
### 現場の動き

- ◆ イベントが再開され、徐々に人出は戻りつつあるが、コロナ禍前と比較すると60%～70%程度の人出となった。
- ◆ ブティックでは、例年より早く暖かくなり春物需要があるものの、行楽が可能にならない限り衣料品需要の本格的な回復は期待できない。(以上、柳ヶ瀬商店街)
- ◆ 日用・雑貨店では、コロナ禍による景気低迷が継続し、店頭、企業向け納品の売上とも厳しい。昨年はマスク、手指消毒剤、トイレトペーパーの特需があったが、今年はそれもなく売上は大幅ダウンの見通し。
- ◆ 和菓子店の売上は、大きく落ち込んだ昨年と比べると増加した。採用面では、中途採用の求人いくつか応募があるなど、コロナ禍前より採用しやすい状況にある。(以上、大垣市商店街)
- ◆ 家電販売店は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により設備機器の工事が延期となるなど、厳しい受注状況にある。(高山市商店街)
- ◆ 酒店の売上は、密につながる送迎会や花見などの宴会・食事会が非常に少なく、新型コロナウイルスが拡大し始めた昨年より厳しくなっている。(多治見市商店街)

# 観光

○主要観光地における2月の観光客数は、前年同月比▲25.9%と減少し、13ヶ月連続で前年同月を下回った。主要宿泊施設における宿泊者数は、前年同期と比較して▲80.9%と減少し、13ヶ月連続で前年同月を下回った。

○2月の主要観光施設における外国人宿泊者数は、前年同月比の増減率では100.0%減少と13ヶ月連続で前年同月を下回った。

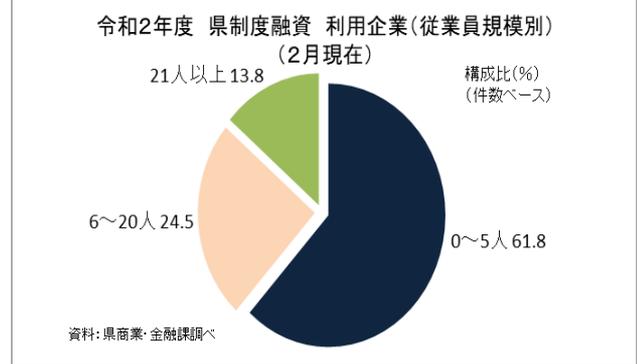
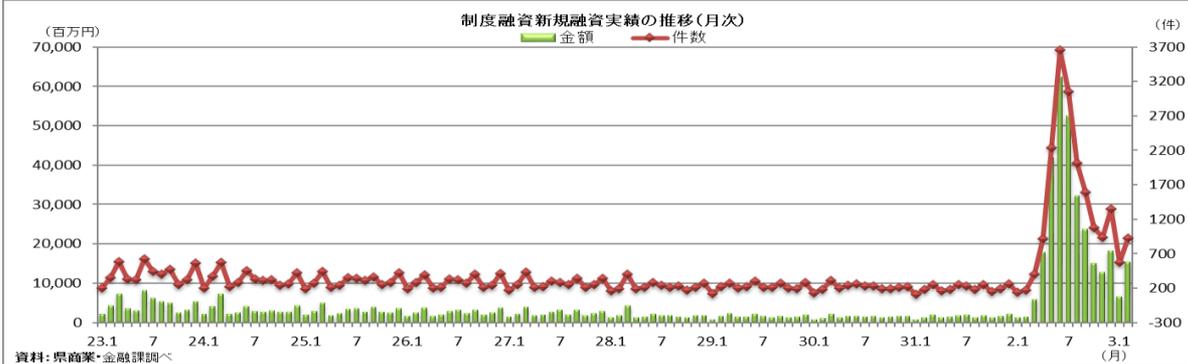
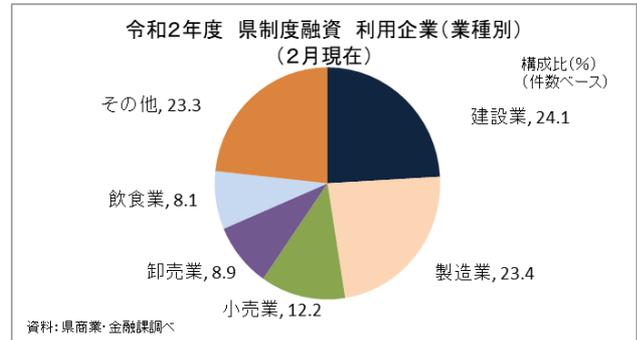


## 現場の動き

- ◆ 緊急事態宣言解除後もほぼ変わらず。ほとんど予約がない状況で週末に少しある程度。(高山市内の宿泊施設)
- ◆ 2月、3月、4月は休館日を設定している。(大垣市内、郡上市内、高山市内の宿泊施設)
- ◆ 3月は小団体やグループ利用が増えている傾向があり、4月はビジネス利用がメインとなる。(多治見市内の宿泊施設)
- ◆ Go Toトラベルが始まらないと体力が持たない。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆ インバウンドは当面無理。国内に居住している外国人の宿泊があるのみ。(下呂市内の宿泊施設)
- ◆ 正社員・パートの求人はしているがなかなか応募がなく苦慮している。(下呂市内の宿泊施設)

# 資金繰り

- 2月の岐阜県貸出金残高は、4兆7,489億円で前年同月比4.8%とプラス基調が続く。
- 2月の制度融資実績は、金額が15,463百万円で前年同月比979.2%と増加した。  
件数は921件で同429.3%と増加した。
- 従業員規模別は、5人以下の事業所が全体の61.8%を占めている。

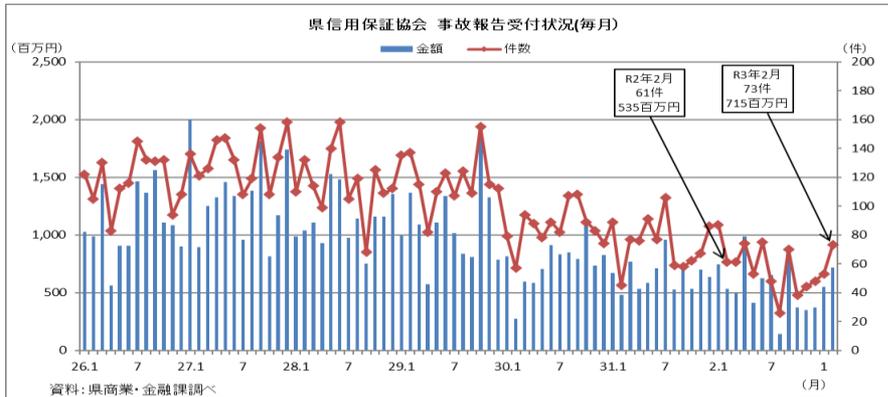
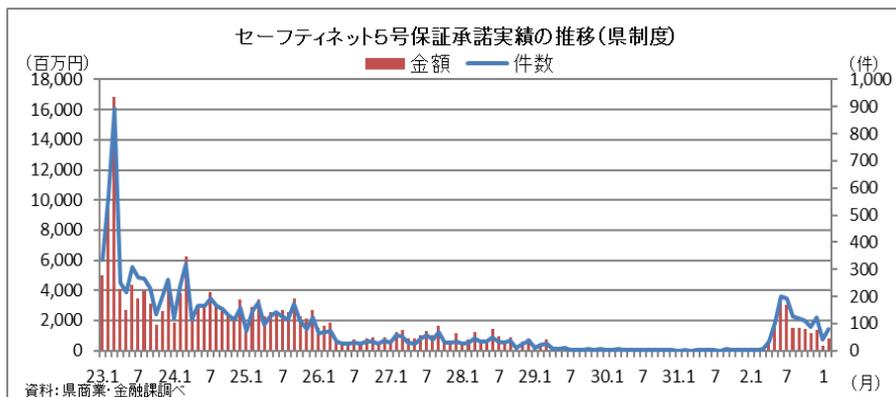
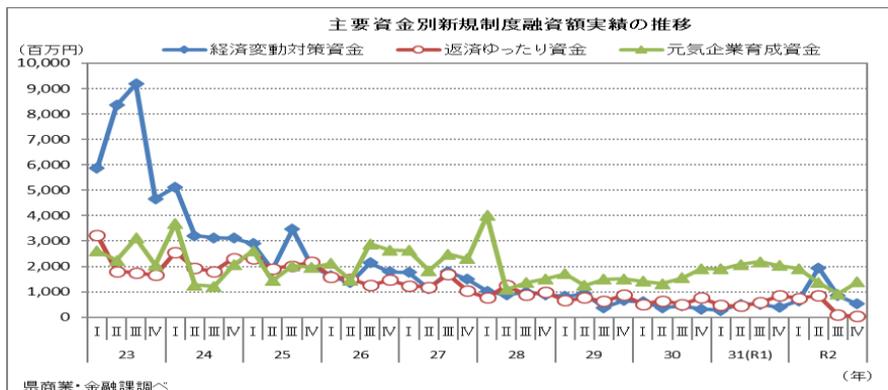
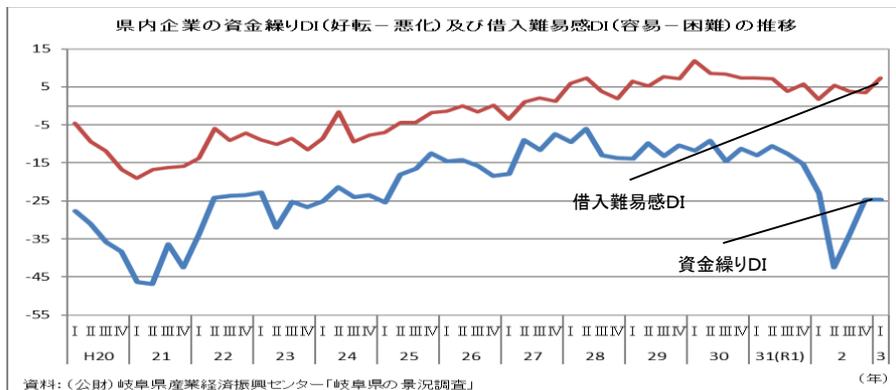


## 現場の動き

- ◆ 実質無利子・無担保融資の申込期限の到来や、上限額の引上げ、借換要件の緩和に伴い、申込が増えている。ピークであった昨年6、7月に次ぐペースである。
- ◆ コロナ関連融資については、余裕資金確保としての需要が多い。
- ◆ 設備投資については、全体的に鈍っているが、運送業の投資意欲が高い印象(倉庫、物流拠点など)。
- ◆ 緊急事態宣言解除に伴い、人出は増えているが、観光関係の業種は依然厳しい。  
(以上、金融)

# 資金繰りー2

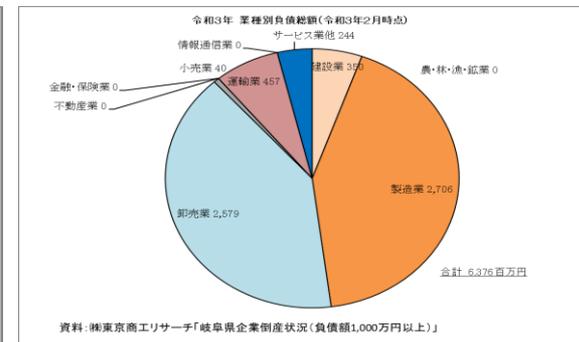
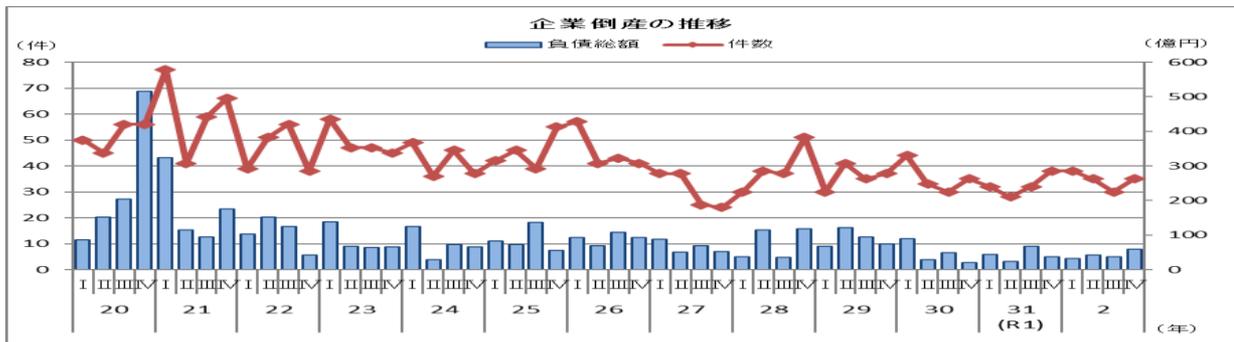
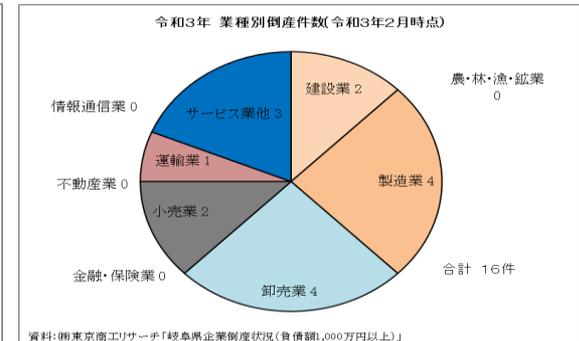
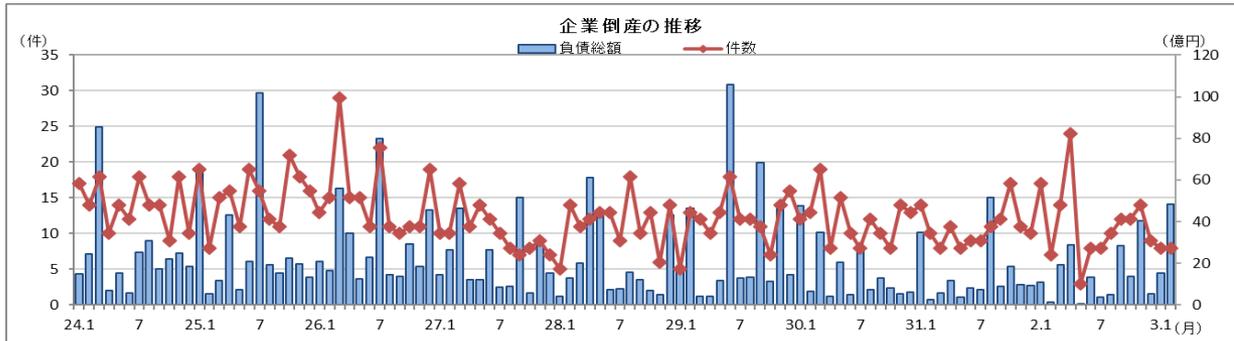
- 1-3月の資金繰りDIは▲24.6で、前期比横ばい。同借入難易感DIは7.3で、同3.8ポイント上昇した。
- 10-12月期の主要資金別新規制度融資実績は、経済変動対策資金で前年同期比37.4%と7期連続で増加、返済ゆったり資金で同▲95.7%と2期連続で減少、元気企業育成資金も同▲31.6%と3期連続で減少となった。
- 2月のセーフティネット5号保証承諾実績は、件数が81件で前年同月比78件増加、金額は823百万円で同760百万円増加した。
- 2月の事故報告(保証協会付融資3ヶ月以上延滞)状況は、件数は73件で前年同月比19.7%増加し、金額も715百万円で同33.8%増加した。



# 倒産

○2月単月の倒産件数は前月比横ばいの8件、負債総額は前月比3,274百万円増の4,825百万円となった。

○1月から2月までの累計倒産件数は16件となり、前年同期の24件から8件減少。累計負債総額は6,376百万円となり、前年同期の1,224百万円から5,152百万円増加で推移した。



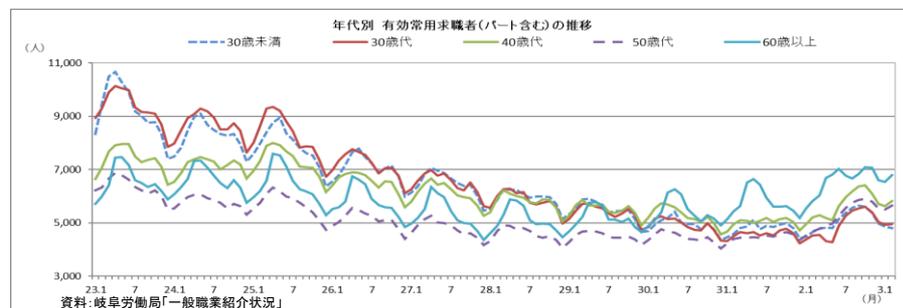
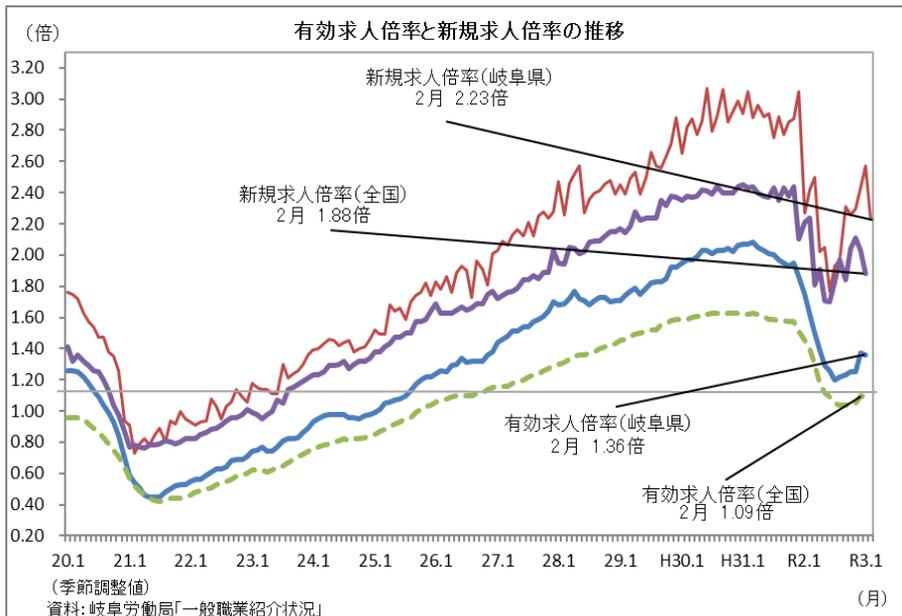
## 専門機関の分析(東京商工リサーチ)

- ◆ 岐阜県では3月7日、1都3県では3月21日に緊急事態宣言が解除された。事業環境の悪化が続く中で、息切れ破たんや先行き見通し難による諦めのほか、休業していた企業の債務整理なども進み、コロナ関連破たんは増加する可能性が高まっている。
- ◆ こうした状況の中、政府も事業の再構築に取り組む中小企業に対する支援には積極的で、間もなく総予算1兆1,485億円の超大型補助金「事業再構築補助金」の公募が開始される。今後もこうした支援策が打ち出されるものと見られるが、支援の手が届かない企業の動向にも注視が必要となってくる。

# 雇用

- 2月の有効求人倍率は1.36倍と、前月比▲0.01ポイントと8ヶ月ぶりに減少。
- 2月の新規求人倍率は、2.23倍と同▲0.34ポイント低下した。

- 2月の雇用保険受給者人員は、前月比▲6.3%と減少した。
- 年代別有効常用求職者は、9ヶ月連続で前年同月比で増加した。



## 現場の動き

- ◆ 現場オペレーターの求人は、20代後半から30代前半の応募者が県外からも含めて数多くあり、順調に採用が進む。それに対して、検査や軽作業パートの応募はほとんどなく、他部署からの応援で凌いでいる。昨年末からの傾向では日本人派遣の定着が芳しくないため、定着率のよい外国人派遣の導入エリアを拡大中。(食品製造)
- ◆ 人手不足感は若干残ってはいるものの、新卒の配属予定も決まっている上、応援体制も確立されているので、徐々に収束に向かっている。(食品製造)
- ◆ 県の「オール岐阜・企業フェス」に参加した。(輸送用機械)
- ◆ 大垣地区での派遣社員の雇用確保が難しく、人手が足りない状況。(輸送用機械)
- ◆ 人材の過不足感について、部署により過不足感があるため、部署間で異動させている。中途採用は考えていない。(輸送用機械)

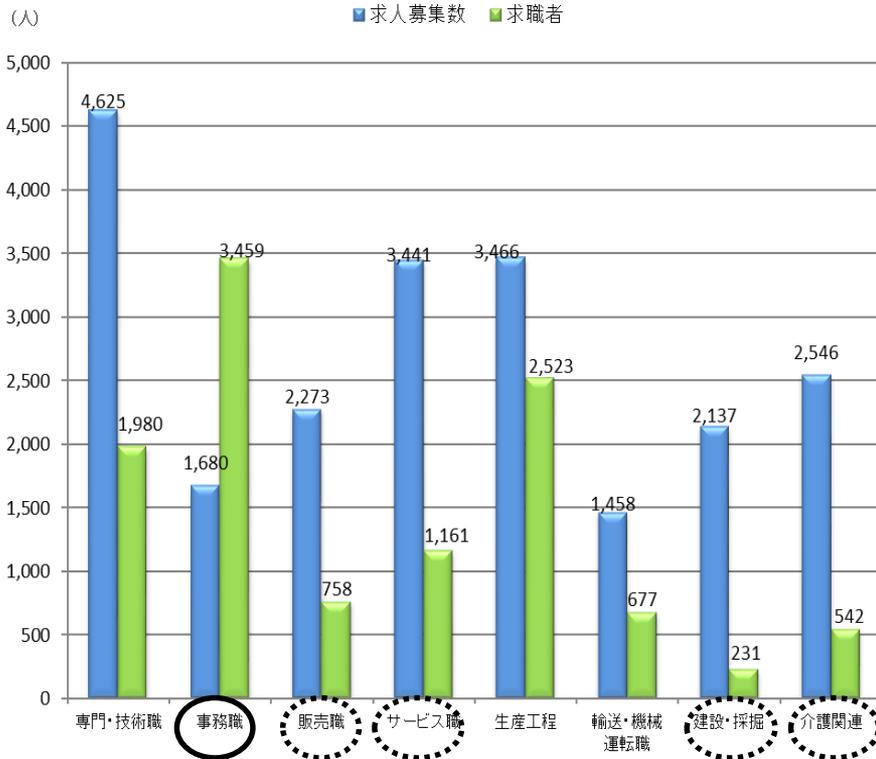
# 雇 用(職業別)

○有効求人倍率は、建設・採掘で9.25倍、介護関連で4.70倍、販売職で3.00倍、サービス職で2.96倍など、引き続き人手不足の状況は続いている。

○一方で、事務職の有効求人倍率は0.49倍に留まり、求職者のニーズと、求人側のニーズのミスマッチが続いている。

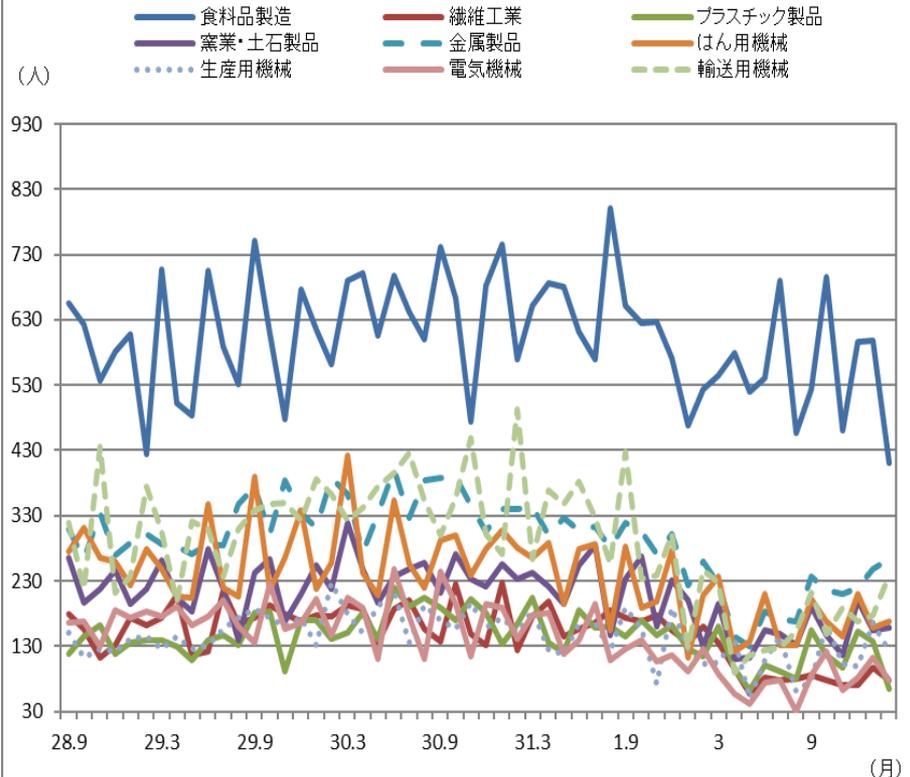
○2月の主要産業別の新規求人数は、窯業・土石製品で前年同月比22.3%、生産用機械で同18.4%、金属製品で同1.5%と増加したものの、繊維工業で同▲51.9%、プラスチック製品で同▲43.0%、電気機械で同▲38.1%、食料品製造で同▲21.4%、はん用機械で同19.2%、輸送用機械で同▲3.6%と減少した。

2月 職業別有効求人募集数・有効求職者数(常勤フルタイム)



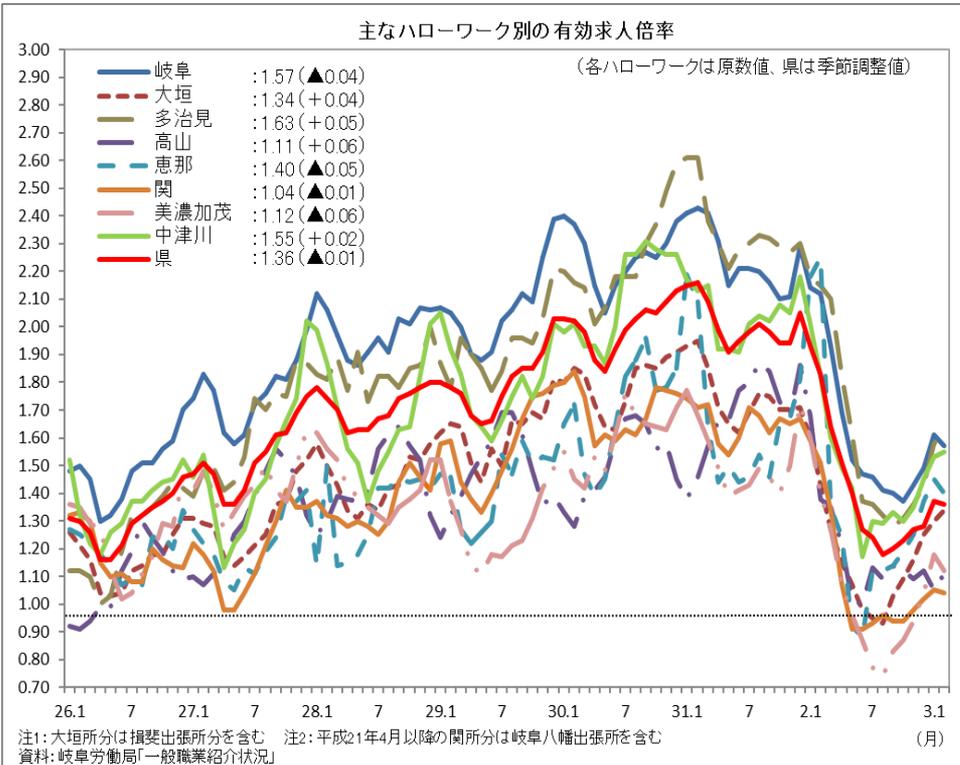
資料: 岐阜労働局「求人・求職バランスシート」

主要産業別 新規求人数(一般+パート)推移



資料: 岐阜労働局「一般職業紹介状況」

# 雇用(地域別)



○2月の主なハローワーク別の有効求人倍率は、引き続き、岐阜、多治見、中津川で1.5倍を超えている。

## 現場の動き(前月比)

### <ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数、求職者数ともにやや増加。
- ◆雇用保険受給者数はやや減少。

### <ハローワーク大垣>

- ◆求人者数、求職者数ともにやや減少。
- ◆雇用保険受給者数はやや増加。

### <ハローワーク多治見>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数はやや減少。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

### <ハローワーク高山>

- ◆求人者数は増加、求職者数はやや減少。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク恵那>

- ◆求人者数、求職者数ともに増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク関>

- ◆求人者数、求職者数ともに増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数は増加、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク中津川>

- ◆求人者数はやや増加、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <窓口の様子> ※前月比

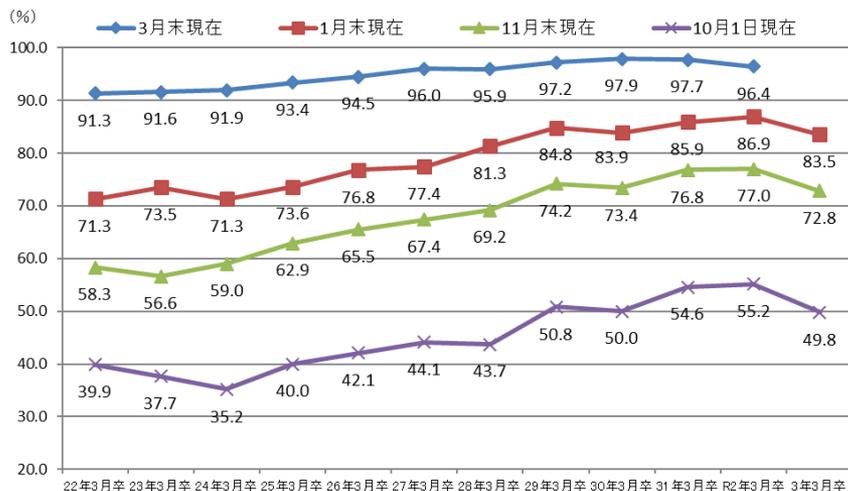
- ◆多治見と中津川以外では、混雑傾向にあった。

# 雇 用(大学・短大新卒者の就職)

○岐阜県の令和3年1月末時点の大学・短大卒業者(令和3年3月卒業)の就職内定率は、83.5%であり、前年同時点と比べ▲3.4ポイントと低下した。

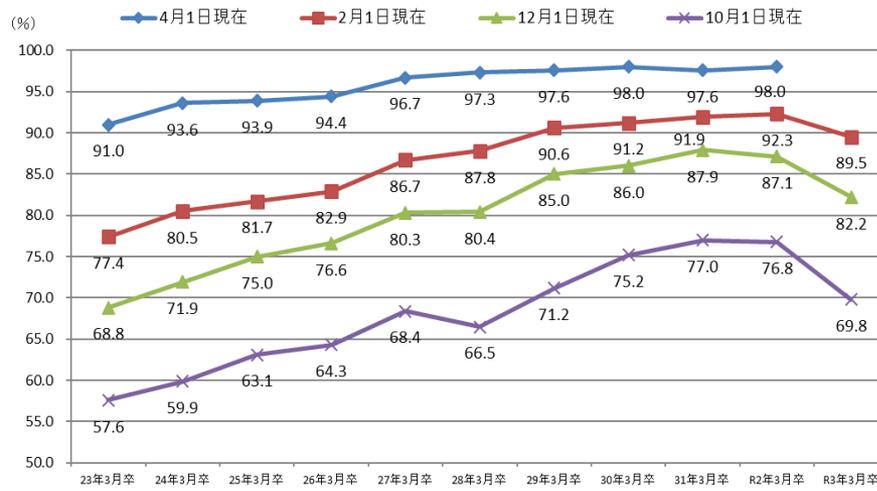
○全国の令和3年2月1日現在の大学卒業者(令和3年3月卒業)内定率は89.5%であり、前年同時点と比べ▲2.8ポイントと低下した。

新規卒業者(大学・短大)の就職内定率の推移<岐阜県>



資料:岐阜労働局「新規学校卒業者(大学・短大)の就職内定状況」

新規卒業者(大学)の就職内定率の推移<全国>



資料:厚生労働省「大学等卒業予定者の就職状況調査」

## 現場の動き(2022卒の動きなど)

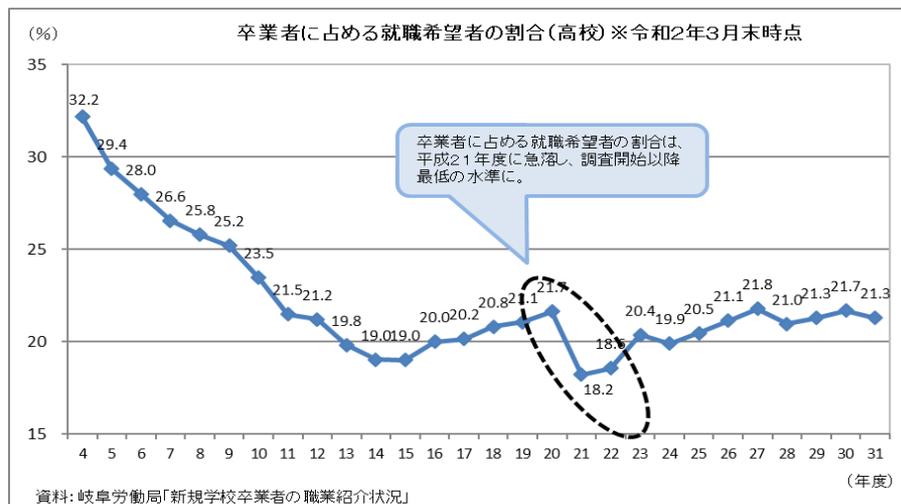
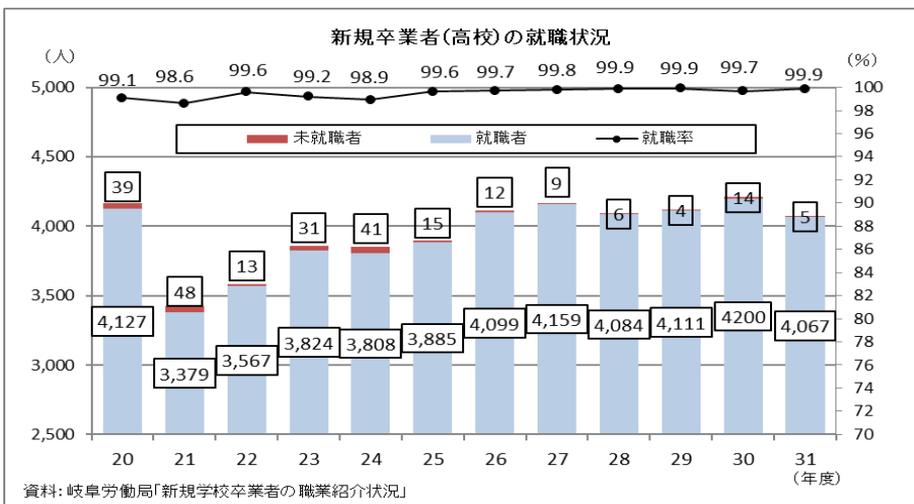
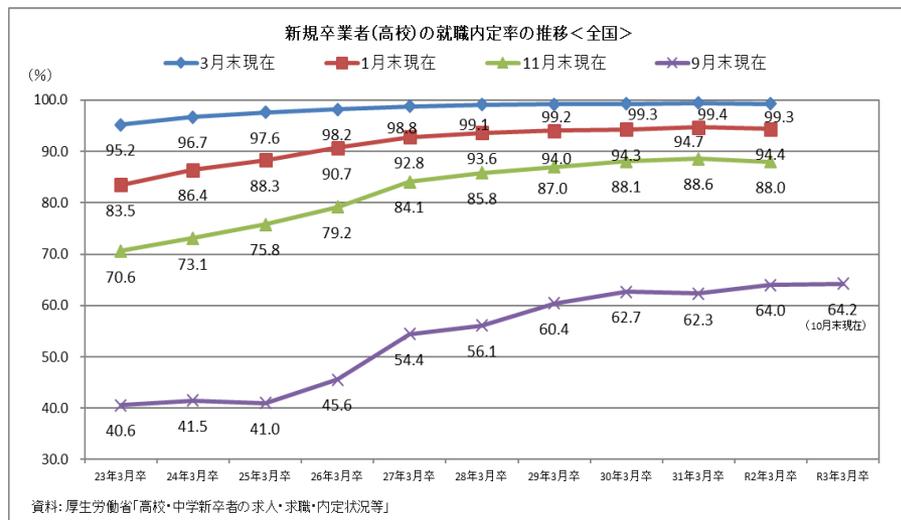
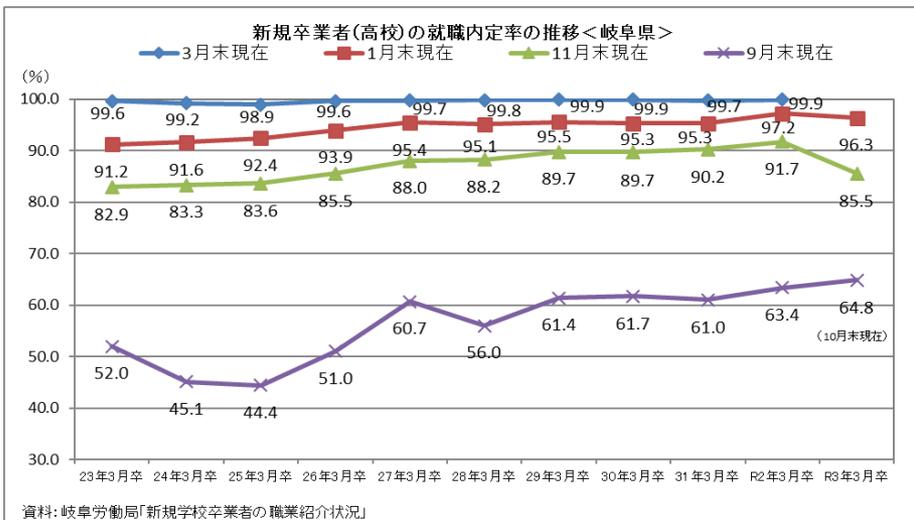
### <大学へのヒアリング>

- ◆ 21卒の就職率は最終的に昨年から微減程度の数字になる見込みである。
- ◆ 21卒の未内定者が多い。個別に状況確認を試みるが、連絡がつかない学生が多い。
- ◆ 21卒の内定状況はおそらく8~9割程度。外国人留学生で未内定学生がいるが、外国人向け求人が減っており、支援が難しい。
- ◆ 22卒向けの学内企業説明会(オンライン)を3月前半に実施したが、参加学生は思ったほど集まらなかった。
- ◆ 22卒からの相談は、3月後半からかなり増えてきた。ES添削の希望が多い。(以上、岐阜県内大学)
- ◆ 21卒の就職率は例年程度となる見込み。
- ◆ 22卒向けに対面で合同企業説明会を実施。まずまず集まった。(以上、愛知県内大学)

# 雇 用(高校新卒者の就職)

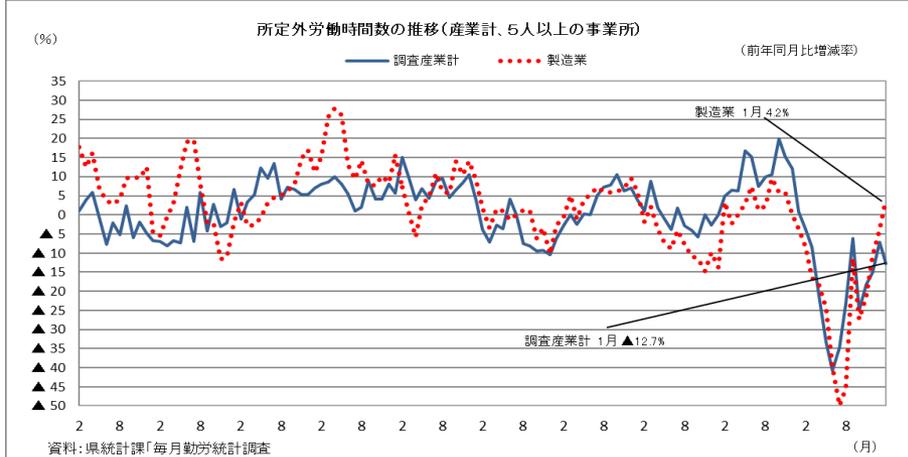
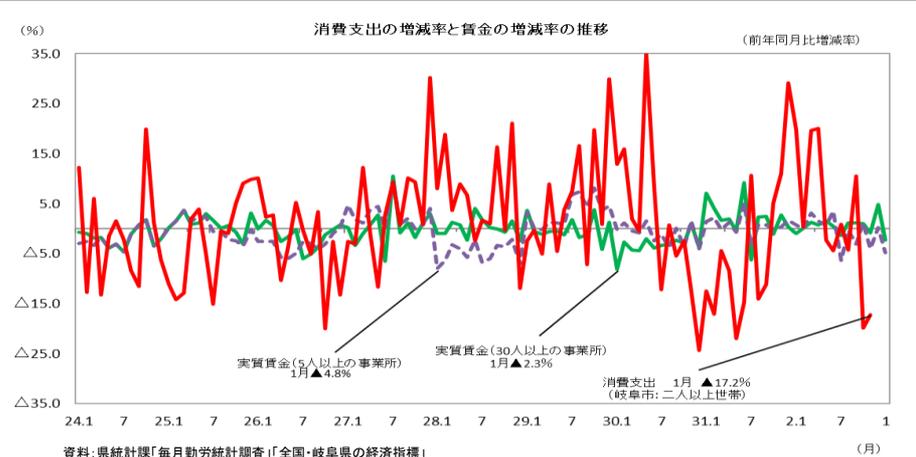
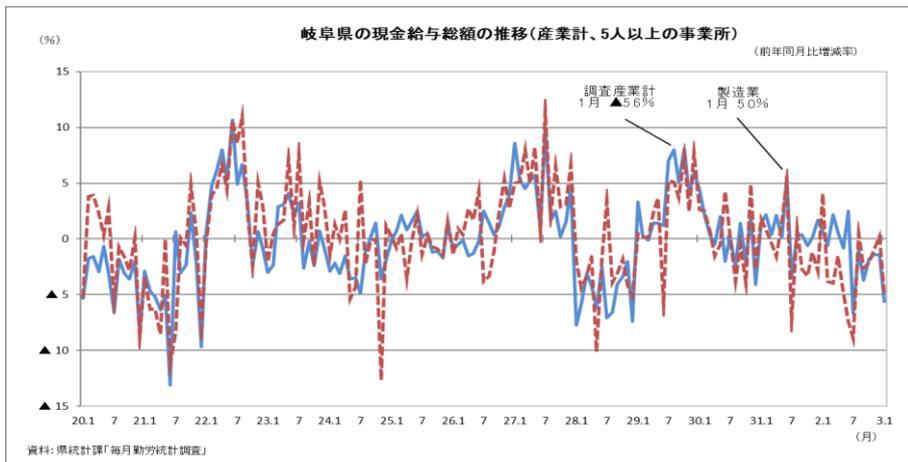
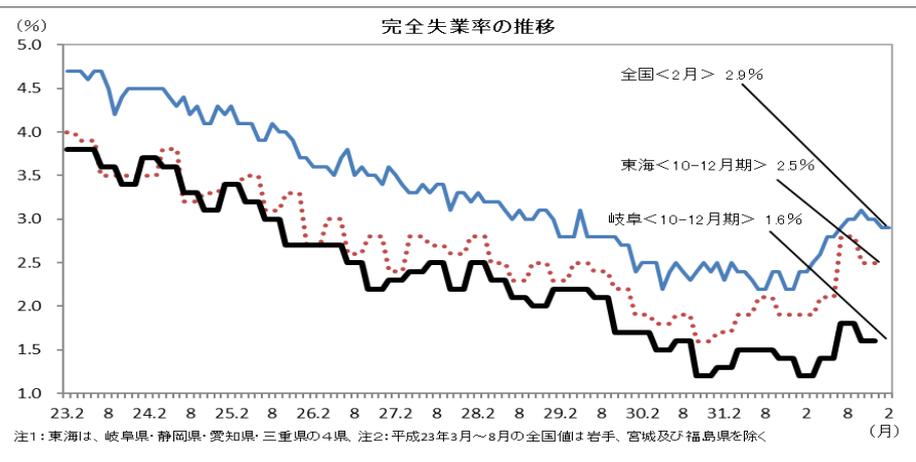
○岐阜県の令和3年1月末時点の高校卒業者(令和3年3月卒業)就職内定率は96.3%であり、前年同時期と比べ▲0.9ポイントと減少した。

○全国の令和2年10月末時点の高校卒業者(令和3年3月卒業)就職内定率は64.2%であり、前年同時期と比べて0.2ポイント上昇した。



# 雇 用(完全失業率等)

- 全国の2月の完全失業率は2.9%で前月比横ばい。岐阜県の10-12月期の平均は1.6%で前期比▲0.2ポイントと低下。
- 1月の現金給与総額は、調査産業計で前年同月比▲5.6%、製造業で同▲5.0%と減少。
- 1月の実質賃金増減率は、30人以上の事業所は前年同月比▲2.3%、5人以上の事業所は同▲4.8%と減少。1月の消費支出については同▲17.2%と減少した。
- 1月の所定外労働時間数は前年同月比▲12.7%と13ヶ月連続で減少した。



# <経済・雇用の現状（総括）>

- 製造業は、1月の鉱工業生産指数が前月比1.4%と上昇。ヒアリングでは、自動車関係の受注が堅調に推移しているとの声があった一方で、半導体大手ルネサスエレクトロニクスの那珂工場で発生した火災の影響により、先行きは不透明であるとの声があった。
- 地場産業は、1月の鉱工業生産指数が食料品、家具を除き上昇した。ヒアリングでは、中国向けの動きが活発になってきたとの声があった一方で、ミャンマー情勢が県内企業に与える影響を不安視する声もあった。
- 設備投資は、2月の金属工作機械受注額が海外向けでは4ヶ月連続で前年を上回ったが、国内向けで27ヶ月連続で前年を下回り、全体としては2ヶ月ぶりに前年を上回った。ヒアリングにおいては、建物へ設備投資を行う動きが一部の企業に見られたものの、全体としては、建物ではなく機械への設備投資を予定しているとの声が多くを占めた。
- 個人消費は、家電大型専門店で前年同月比7.0%、百貨店・スーパーで同4.7%と増加したものの、コンビニで同▲7.1%、ドラッグストアで同▲5.2%、ホームセンターで同▲0.3%と減少した。ヒアリングにおいては、感染症対策を行ったうえで商店街やショッピングモールでのイベントを再開させる動きが見られた。
- 観光は、新型コロナウイルスの影響により観光地、宿泊施設ともに前年同月を下回った。2月、3月上旬も引き続き緊急事態宣言の対象区域となり、大きく落ち込んだ。緊急事態宣言解除後は小団体等での利用が増加しているとの声もある一方で、ほとんど変化はなく厳しい状況が続いているとの声があった。
- 企業の資金繰りは、2月の制度融資実績は、引き続き、件数、金額ともに前年同月比で大きく増加した。金融機関からのヒアリングでは、実質無利子・無担保融資の申込期限の到来により、申込件数が昨年ピーク時に次ぐ水準となった、との声があった。
- 雇用面は、2月の有効求人倍率が1.36倍と8ヶ月ぶりに減少した。ヒアリングでは、職種や部署、地域間で人材の過不足感が異なるとの声が聞かれた。